

第1章 第三次山県市子どもの読書活動推進計画の背景

1 子どもの読書活動の意義

言葉は人類が獲得した貴重な財産である。言葉は、複雑なコミュニケーションを可能とし、さらに文字を介することで、社会の形成や学問・文化・科学等の発展をもたらした。言葉や文字は、知的な財産や経験を過去から未来へ、また空間を超えた伝達手段としてつながり、高度で豊かな社会を切り拓く上で重要な役割を果たしてきた。

こうした機能を果たす言葉や文字を子どもに獲得させることは、社会の責務である。そして、あらゆる分野の知識を享受させる有効な手段のひとつが読書である。また、読書は単に知識・情報の伝達のみならず、ものごとを考えたり、想像力を膨らませたりするなど、豊かな思考や感情を育み、楽しみながら一生の財産を獲得することができる貴重な営みでもある。

しかし、ここ数年来子どもの読書離れが危惧されてきた。加えて情報通信技術の発達によって書籍を手にする機会が減少している。情報は溢れても自分でものごとを考えず、情報を断片的に切り取ったり真偽を確かめず鵜呑みにしたりして物事を判断したり、社会や自然現象、人間関係などにおいて、豊かな感性や想像力をはたらかせて考えを深める資質が養われにくいなどの課題が指摘される。

こうした状況下において、読書は自分でものを考える習慣を形成すると共に、国語力を向上させ、豊かな感性を磨く基盤をつくる有効な手段となる。情報化社会が進展し、多くの情報に囲まれて生活する現代にあっても、子どもに確かな読書習慣を身につけさせ、豊かな読書活動を経験させることが必要である。

2 第二次山県市子どもの読書活動推進計画（平成30年度～令和4年度）の評価

山県市は、子どもの読書活動の大切さに鑑み、「第二次山県市子どもの読書活動推進計画（以下、第二次推進計画）」を策定し、次の3つの基本方針を示した。

・子どもが読書に親しむ機会づくり

乳幼児期から読書に親しみ、発育・発達に応じ自主的に読書習慣を身につけていくことができる機会づくり。

・家庭・地域・学校等の連携による読書活動の推進

家庭・地域・学校等がそれぞれ担うべき役割を果たしながら、連携・協力して子どもが日常的に読書に親しむ環境づくり。

・子どもの読書の意義と重要性の啓発

子どもの読書活動の意義及び重要性について、大人に理解と関心をもってもらうための啓発。

これらの方針を実現するため、家庭、地域、保育園、幼稚園、小中学校、高等学校が、「施策と具体的な取組」を示して5年間の活動を継続してきた。

第三次山県市子どもの読書活動推進計画（以下、第三次推進計画）策定にあたっては、第二次推進計画の取組で得られた成果と課題を明らかにし、それを踏まえて今後の方針や具体的な方策を方向づけるため、山県市の担当部局がそれぞれの5年間の取組に対する自己評価を行った。（自己評価の結果については、巻末「資料編」を参照。）また、保育園児保護者や小中学校の児童生徒に対しアンケート調査を実施し、第二次推進計画が子どもの読書傾向にどのように反映しているかを考察した。以下、その結果を示す。

保育園児保護者や小中学校の児童生徒に対するアンケート調査

(1) アンケート実施対象者 ※令和4年5月1日現在の人数

(保育園) 山県市内保育園児の全保護者 (424人)

(小学校) 山県市内小学校から5校を抽出し、2年生・5年生を対象に実施。

2年生児童	高富小2学級	(47人)
	梅原小1学級	(8人)
	大桑小1学級	(10人)
	伊自良南小1学級	(11人)
	美山小1学級	(33人)
	計	109人

5年生児童	高富小2学級	(57人)
	梅原小1学級	(8人)
	大桑小1学級	(8人)
	伊自良南小1学級	(18人)
	美山小1学級	(27人)
	計	118人

(中学校) 山県市内全中学校から2年生生徒のみを抽出し実施。

	高富中5学級	(147人)
	伊自良中1学級	(28人)
	美山中2学級	(48人)
	計	223人

小中全合計 450人

(2) 実施日 令和4年9月2日(金)～15日(木)

(3) 方法 デジタルデータのアンケートに、保育園児保護者及び児童・生徒が回答し返信する。児童生徒は各学校において時間を設定して行う。(設問数：保育園児保護者12問、小中学生8問)

(4) 調査結果と考察

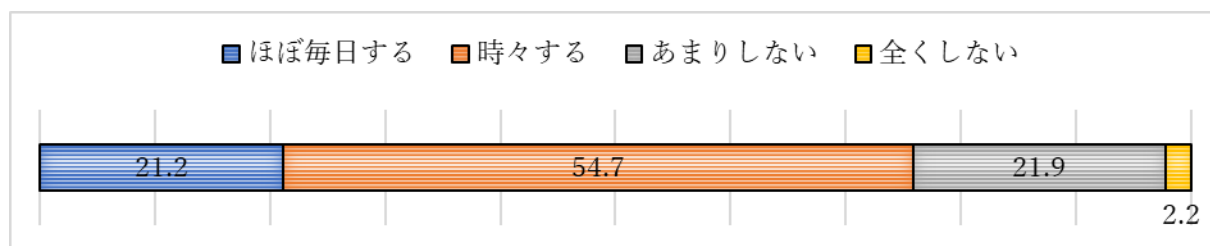
① 保育園児保護者へのアンケート調査(424人中269人回答63.4%)
(子どもを対象とする質問は、長子を対象として回答)

※グラフ内の数値は割合(%)

1 ご家庭ではお子さんに読み聞かせをしていますか。

《結果》

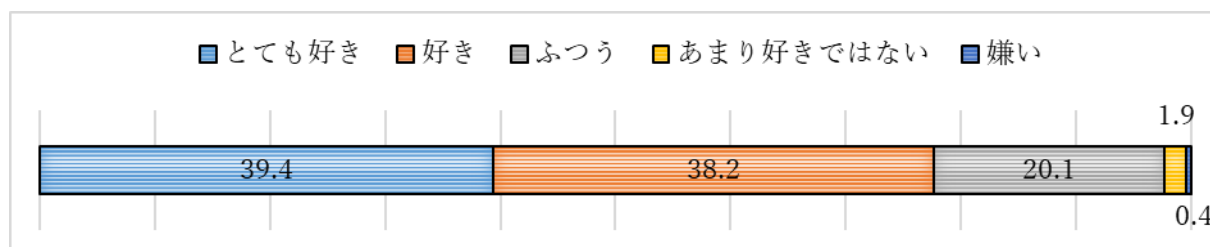
「ほぼ毎日する」「時々する」を合わせて75.9%が家庭での読み聞かせを行っている。しかし、「あまりしない」「全くしない」家庭も合わせて24.1%あり、乳幼児期の読み聞かせの大切さを保護者に今後も啓発すること、そのために関係機関がより積極的な事業推進をすることが求められる。



2 お子さんは、本や絵本や紙芝居などの読み聞かせが好きですか。

《結果》

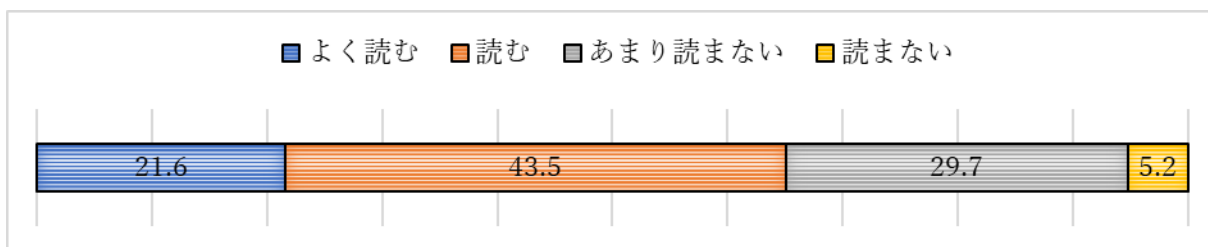
「とても好き」「好き」を合わせて77.6%の子どもが読み聞かせが好きで、高い関心をもっている。保育園や家庭での読み聞かせの大切さがうかがえる。この時期の子どもはまず、大人からの読み聞かせが自力読書の前に必要であろう。「あまり好きではない」「嫌い」を合わせると2.3%の割合であった。



3 お子さんは自分で進んで本や絵本を読まれますか。

《結果》

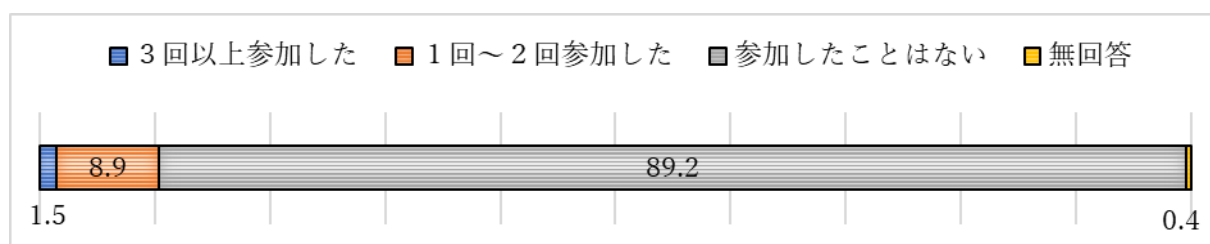
「よく読む」「読む」を合わせ 65.1%で、子どもが自力で読書をする傾向が出ている。年齢にもよるが年中・年長児ほどその傾向は強いのではないかと思われる。しかし、「あまり読まない」「読まない」を合わせて 34.9%の保育園児が自力の読書に親しんでおらず、発達段階に応じた効果的な働きかけや工夫が期待される。



4 過去5年間に、山県市や保育園などが主催する、保護者を対象とした読み聞かせ講座（本の選び方、読み聞かせの仕方など）に参加されたことはありますか。

《結果》

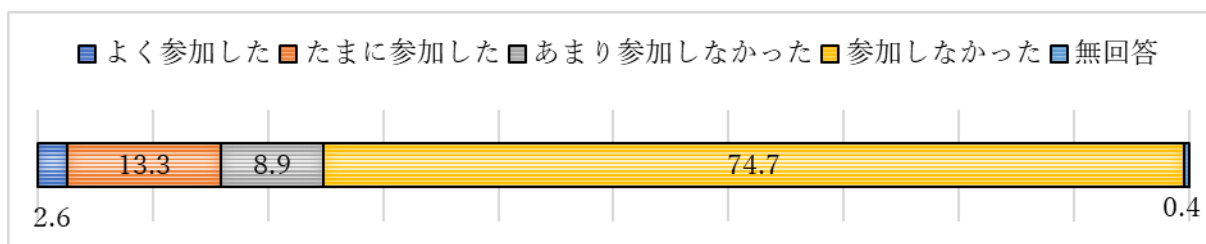
参加の割合は低く、「3回以上」「1～2回」を合わせても 10.4%にとどまる。関係機関で読み聞かせにかかわる事業は行われているものの、回数や内容について工夫が必要である。また、事業内容の周知の仕方にも改善が必要ではないかと思われる。



5・6 過去5年間に、山県市の施設で行っている、お子さんを対象とした読み聞かせに参加されたことはありますか。

《結果》設問6は設問5の回答「参加しなかった」理由。（後掲「資料編」参照。）

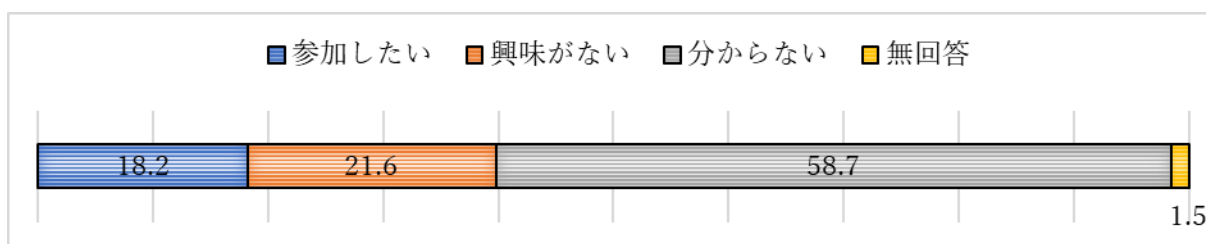
子どもを対象とする読み聞かせは、過去5年間で「参加しなかった」割合が高く、74.7%であった。参加しなかった理由は、「知らなかった」が最も多く、「忙しい」「コロナで参加を控えた」などが続いている。保育園とも連携しながら読み聞かせの工夫や実施時間・場所などの改善をしていく必要があると思われる。



7・8 保護者を対象とした読み聞かせ講座の参加についてお考えをお聞かせください。

《結果》設問 8 は設問 7 「保護者対象の読み聞かせ講座」への意見。（後掲「資料編」参照。）

「参加したい」18.2%、「興味がない」21.6%、「分からない」58.7%となっており、特に「分からない」という回答が多い。読み聞かせの効果や、楽しさなどが保護者に伝わっていないのが実態である。保護者にとって読み聞かせの必要性や効果が感じられるような講座の工夫が求められる。また、開催の仕方も保護者が参加しやすい方法を考える必要があると思われる。

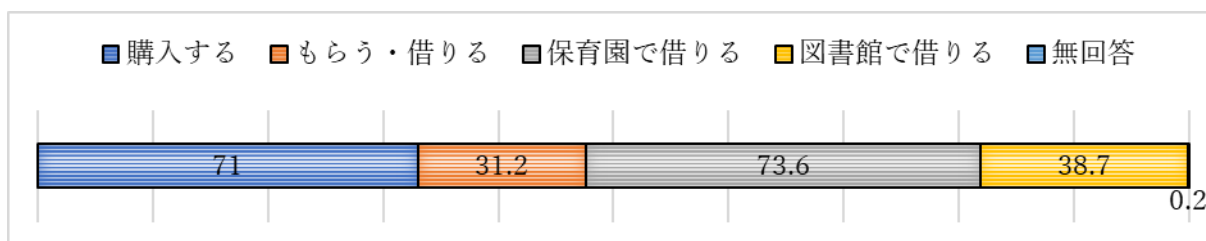


9・10 お子さんの本をどのように入手されていますか。

（複数回答可）

《結果》設問 10 は、設問 9 の選択肢以外の「その他」の解答（3件あり。略。）

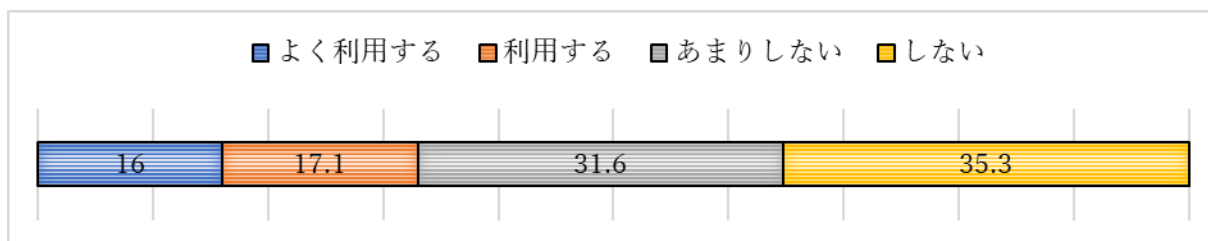
73.6%が保育園で借りる、71.0%が購入するであった。保育園の読書環境と貸出し機能の高さがうかがえる。また、市図書館は38.7%であった。アクセスの面や時間的な制約などもあるため、貸出し数はある程度あるものの保育園ほどの利用はみられない。



11 お子さんの読書や読み聞かせのために、図書館や児童館などの施設を利用されますか。（保育園は除きます。）

《結果》

「よく利用する」「利用する」を合わせて 33.1%、「あまりしない」「しない」を合わせて 66.9%であった。子育て中の保護者にとって魅力のある施設や環境づくり及び講座等を今後も工夫していく必要があると思われる。



12 お子さんの図書や読書について、市図書館、保育園、公民館、高富児童館、子どもげんきはうす、などにご要望があればお聞かせください。

《結果》

※主な意見のみ集約し、略して記述。（後掲「資料編」参照。）

- ・絵本のおすすめをしてほしい。
例 親子で読める楽しい本、月例に合った子どもが喜ぶ本、季節に合った本、子どもの興味に即した本、子ども自らがすすめる本、新刊の本
- ・新作絵本をたくさん置いてほしい。
- ・本は読んだ方が良くということを伝えてほしい。
- ・いろんな場で読み聞かせがあるとよい。
- ・絵本の配列を人気作家さん以外も作家分けにしてほしい。
- ・本の劣化が気になる。
- ・夏だけでも閉館時間を遅くしてほしい。
- ・日曜祝日も開館している施設をふやしてほしい。
- ・保育園で借りられる本の冊数を増やしてほしい。
- ・高富地区に大きな図書館を増やしてほしい。
- ・子どもげんきはうすの絵本貸出期間も、高富児童館と同じ1か月になると嬉しい。
- ・図書館にもっとゆったり本を読めるスペースがあるとよい。

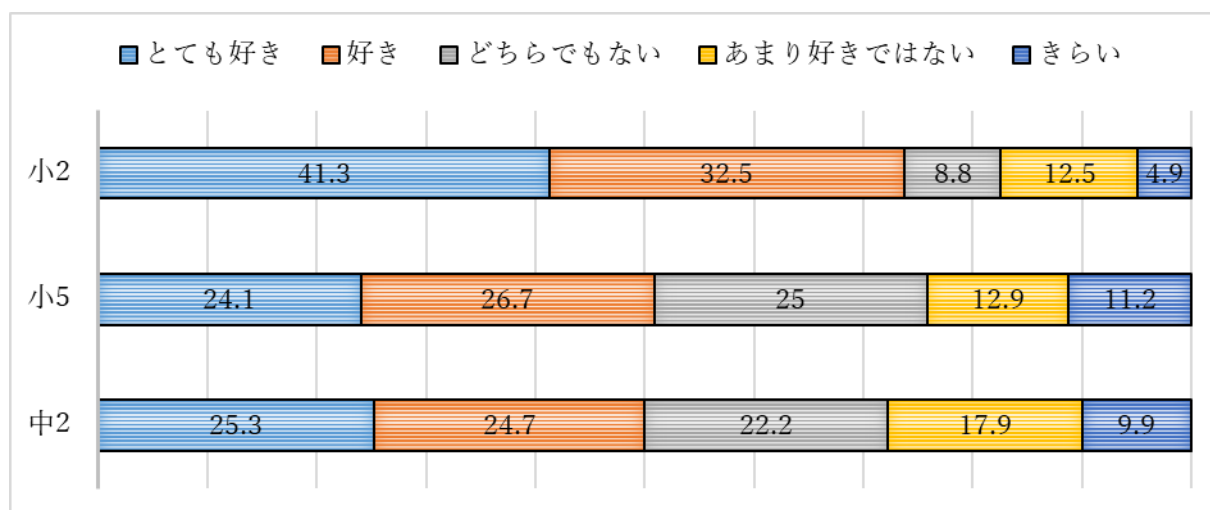
②小中学生（小学校2年生・5年生・中学校2年生）へのアンケート調査

1 あなたは、本（マンガ、雑誌はのぞく）を読むことが好きですか。
1つに○をつけてください。

《結果》

小学校2・5年・中学2年共に、半数以上が「とても好き」または「好き」と回答した。特に小学校2年（以下「低学年」）は41.3%が「とても好き」と回答し、読書好きの傾向が強い。また、小学校5年（以下「高学年」）と中学2年は、「とても好き」と「好き」の割合がそれぞれほぼ同じである。

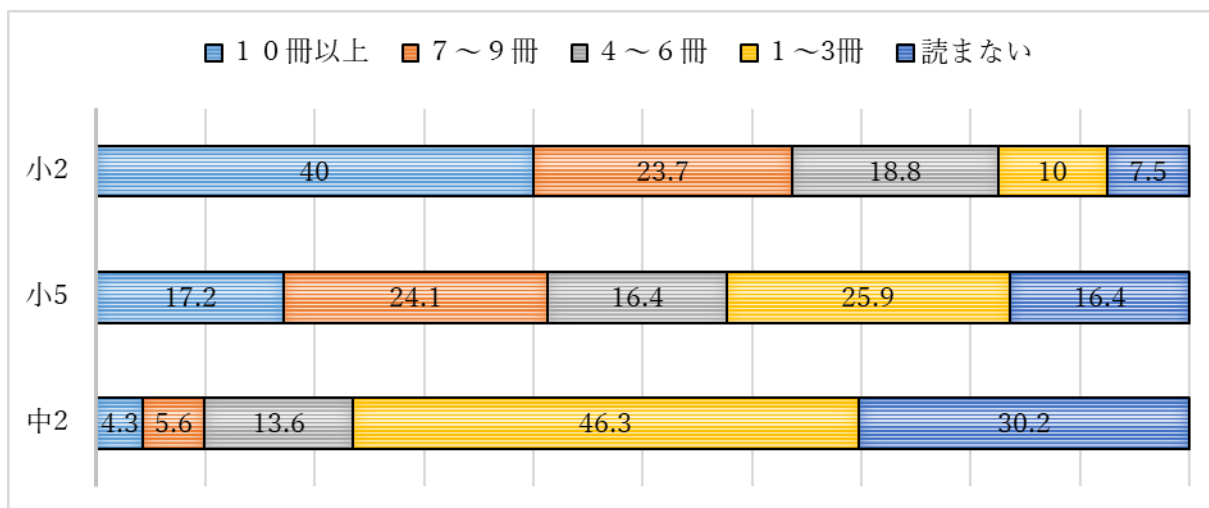
一方「あまり好きではない」または「きらい」と回答した割合は、低学年が17.4%、高学年や中学2年がそれぞれ24.1%、27.8%となっており、年齢が上がるにつれてきらいになる傾向が見られる。



2 あなたは、本（マンガ、雑誌、教科書、参考書はのぞく）を1か月に何冊くらい読みますか。1つに○をつけてください。

《結果》

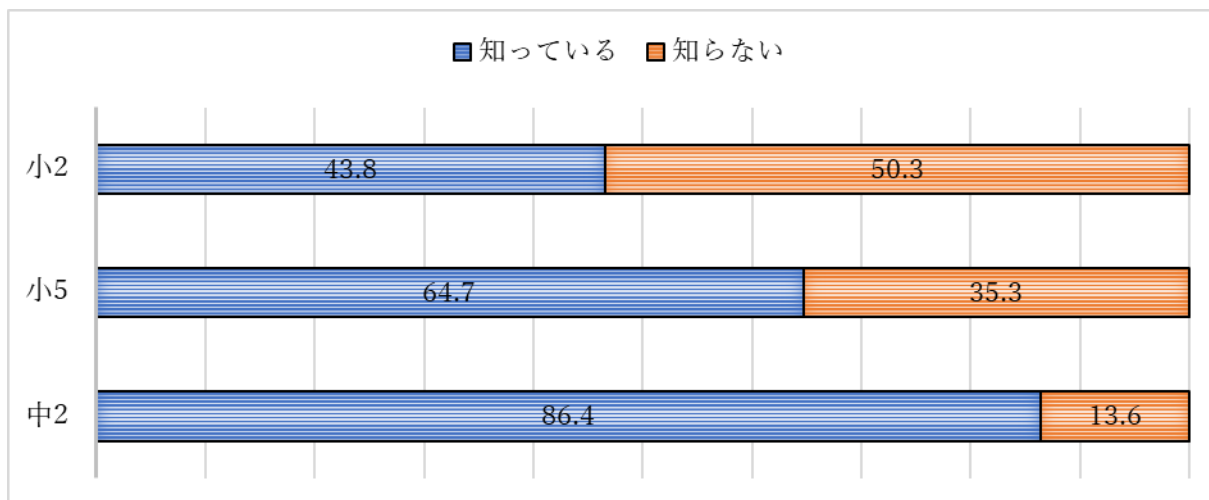
「10冊以上」または、「7～9冊」と答えた割合が、低学年で63.7%、高学年で41.3%、中学2年9.9%と読書量が減っていく。中学2年では全く読まない割合が30.2%あり、「1～3冊」までの割合を加えると76.5%に達する。また、高学年では「読まない」または「1～3冊」を合わせると42.3%となる。子どもの成長につれ読書する本の質・量が変わることは当然であるが、特に中学2年の読書量は低い水準にあるといえる。



3 あなたは、スマートフォンやパソコンで読める本（電子書籍）を知っていますか。1つに○をつけてください。

《結果》

電子書籍の存在を知る割合は、年齢が高くなるにつれて増えていき、中学2年では86.4%が知っている。低学年は43.8%、高学年は64.7%がその存在を知っており、今後この割合は増えていくものと推測される。

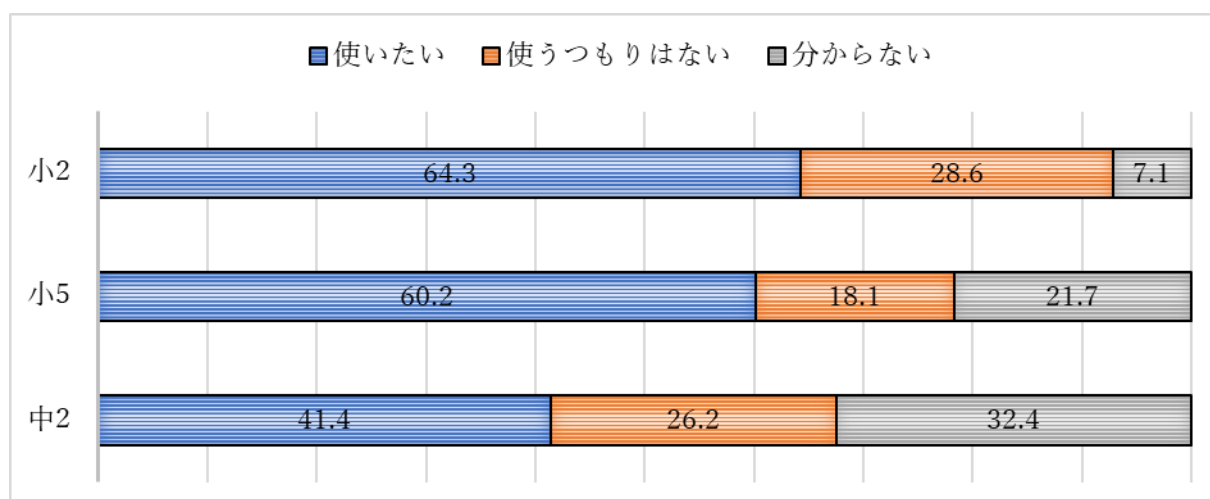


4 3の質問で、「知っている」と答えた人に質問します。学校や山県市の図書館に電子書籍があったら使いたいですか。1つに○をつけてください。

《結果》

低学年の64.3%が、「使いたい」と感じているのに対し、高学年は60.2%とやや減り、中学2年では41.4%とさらに減っている。電子書籍の存在を知っても、成長するにつれそれが直接読書意欲にはつながらないことが予想される。また、中学2年では、自分が電子書籍を使うかどうか分からない割合も32.4%

あり、どのような利用方法や機能があるのか現在の段階では周知されていないといえよう。

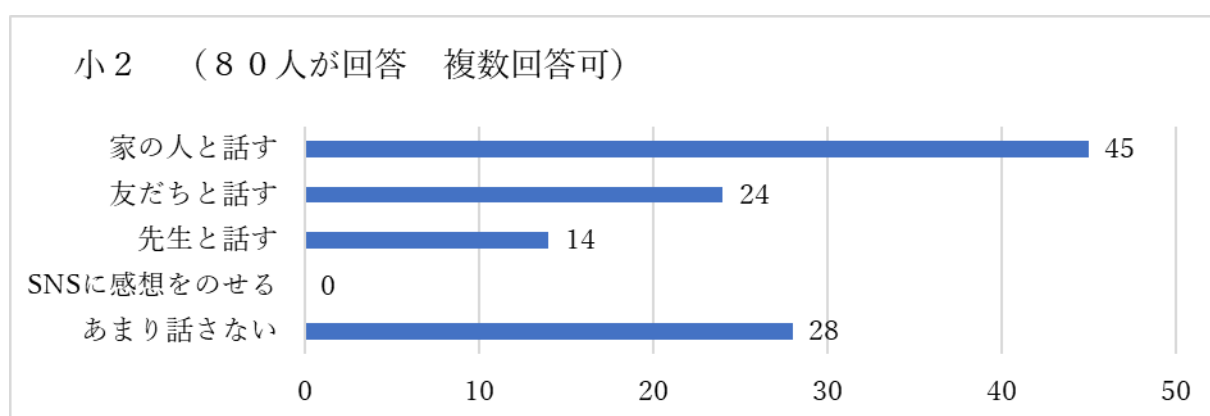


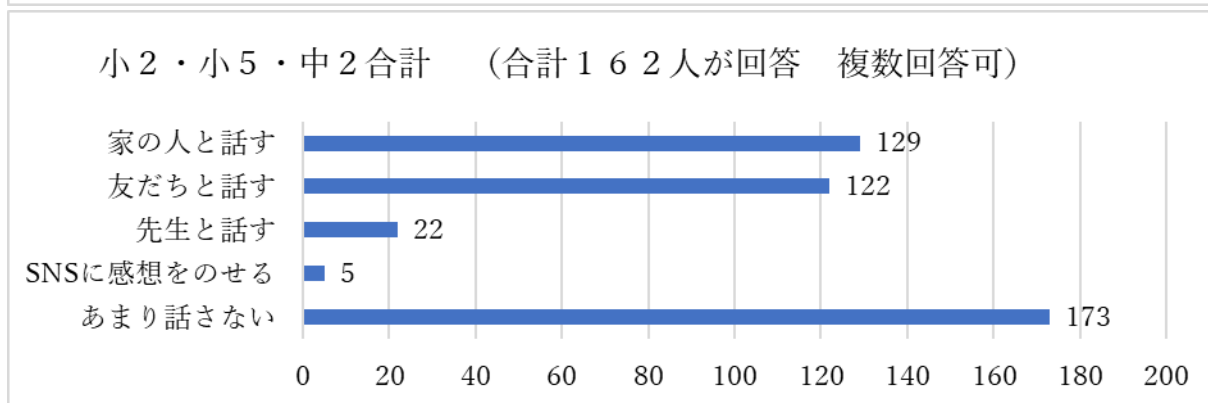
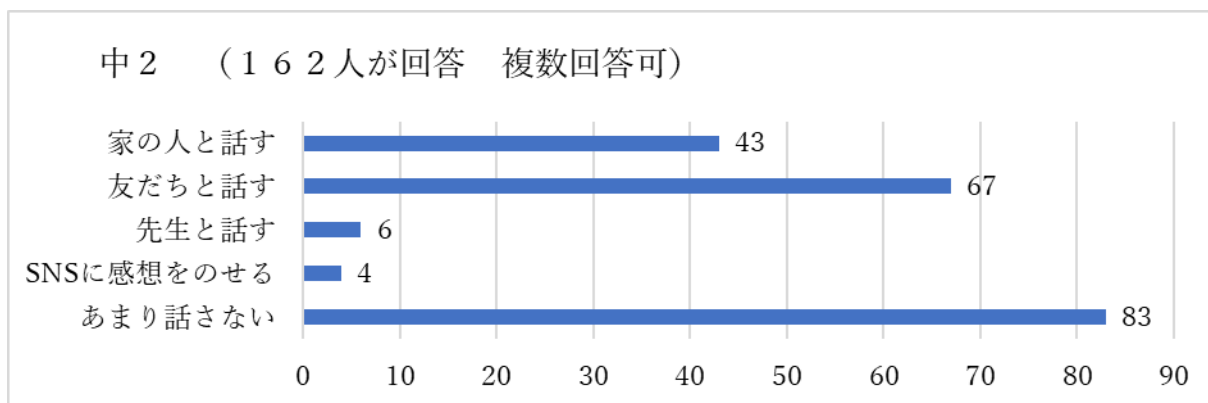
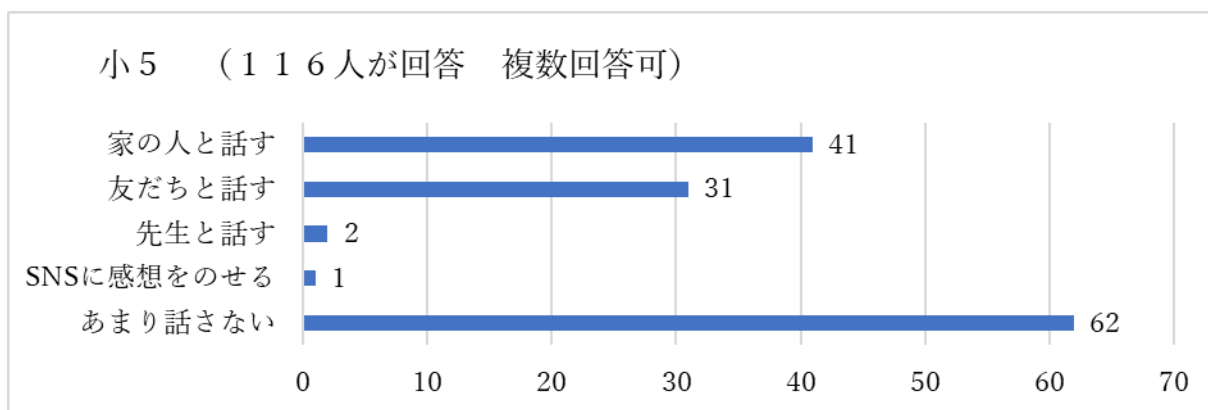
5 あなたは、読んだ本についてだれかと話したり、感想を伝え合ったりすることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

《結果》

「話す」という回答の中では、低学年、高学年共に「家の人」が最も多かった。中学2年では、家族より友達と話すのが最も多かった。また、高学年や中学2年は、読書をして人とも語り合ったり、感想を伝え合ったりする人数が少なかった。本を紹介したり、感想や意見を表出したりする機会を意図的に設けるなどして読書意欲につなげたい。

※棒グラフ内の数値は実数

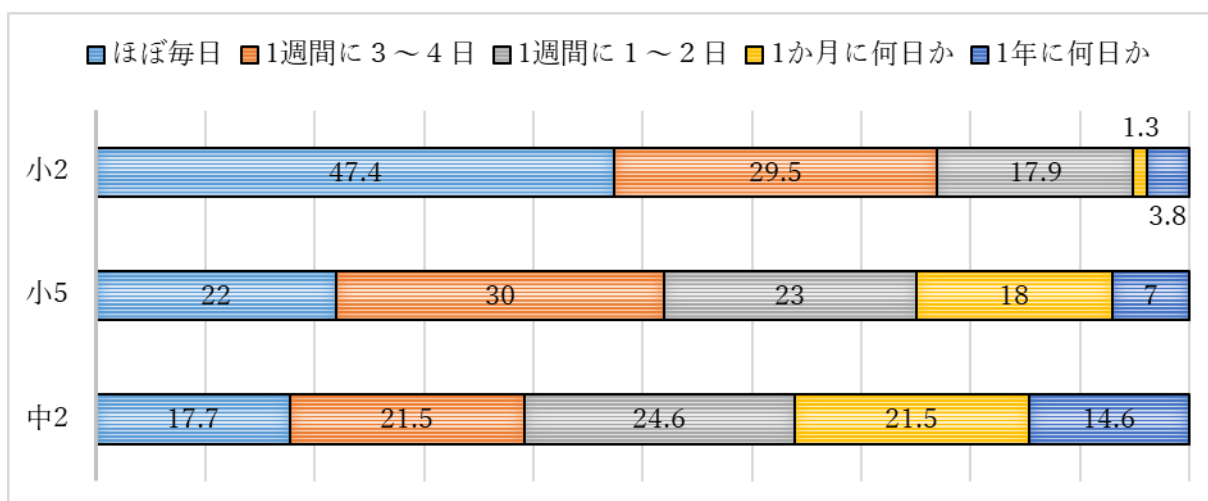




6 (本を読む人に質問します。)あなたは、どれくらい本を読みますか。
1つに○をつけてください。

《結果》

低学年は、「ほぼ毎日」または「1週間に3～4日」を合わせると76.9%で読書習慣がほぼ身についている。しかし、高学年は「1週間に1～2日」、「1か月になん日か」、「1年になん日か」を合わせると48.0%と半数近くにのぼり、読書が習慣化しているとはいいがたい。この傾向は中学2年になると拡大し60.7%となる。発達段階に応じてすすめたい本や、仲間との本を介した交流など、読書に子どもを向かわせる取組が求められる。



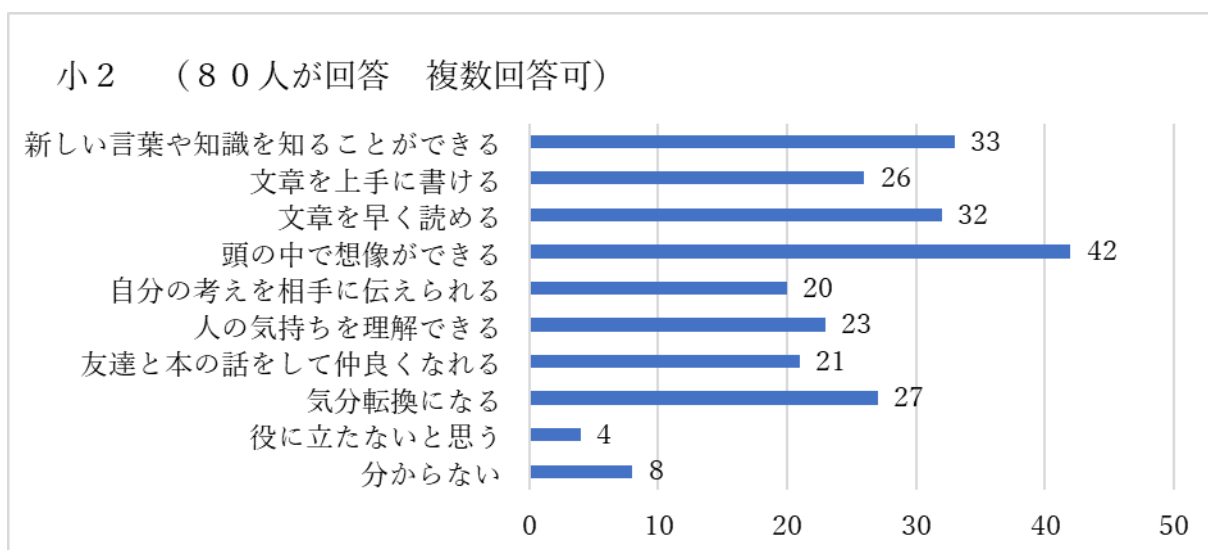
7 (本を読む人に聞きます。) あなたにとって、読書はどんなことに役立つと思いますか。役立つと思うすべてに○をつけてください。

《結果》

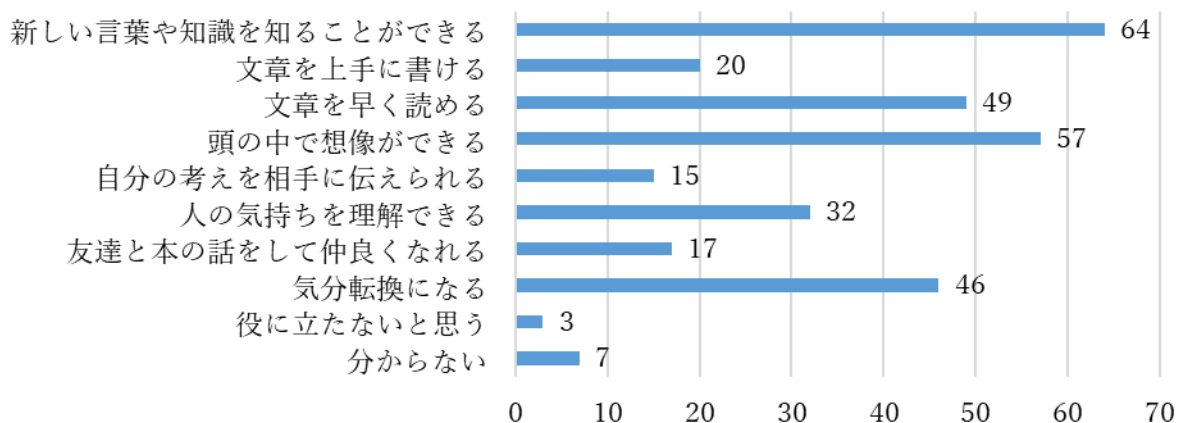
高学年、中学2年共に一番多かった回答は「新しい言葉や知識を知ることができる」であった。尚、低学年で一番多い回答は「頭の中で想像がたくさんできる」で、「新しい言葉や知識を知ることができる。」は2番目だった。

また、「文章を早く読めるようになる」「気分転換になる」の2つの選択肢も含めると、どの学年も、前述の2つの選択肢と合わせた4つの選択肢が上位を占めた。

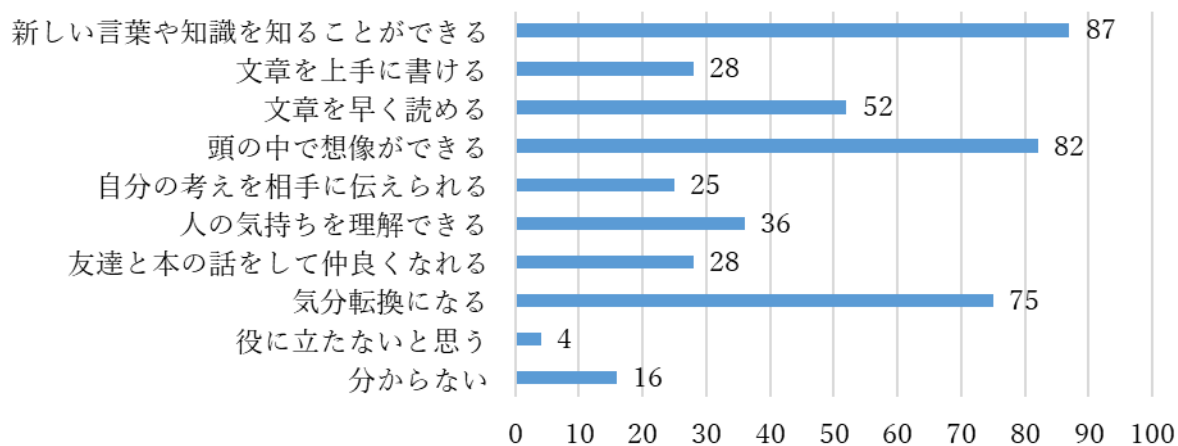
※棒グラフ内の数値は実数



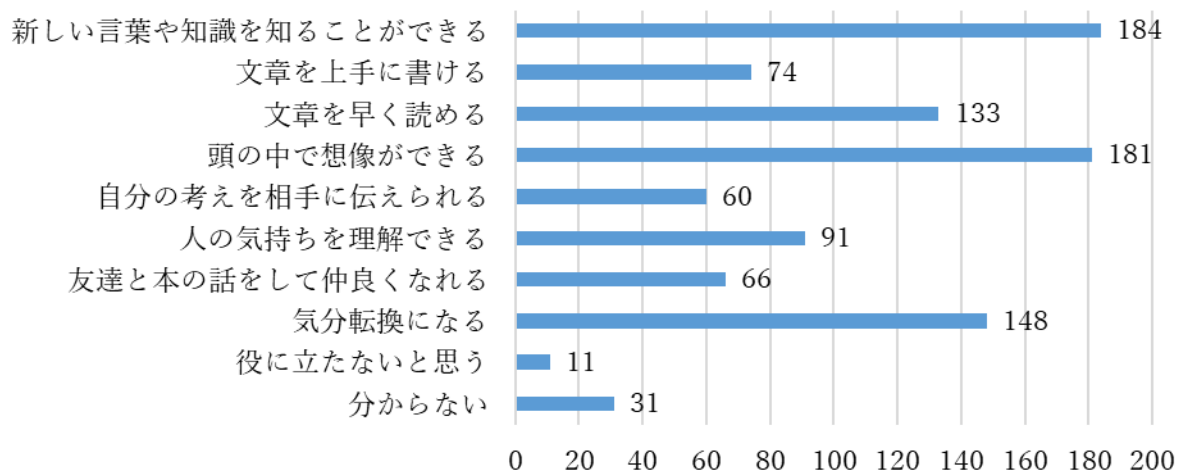
小5 (98人が回答 複数回答可)



中2 (126人が回答 複数回答可)



小2・小5・中2合計 (合計304人が回答 複数回答可)



8 (本を読む人に聞きます。) あなたが読書をするようになったきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

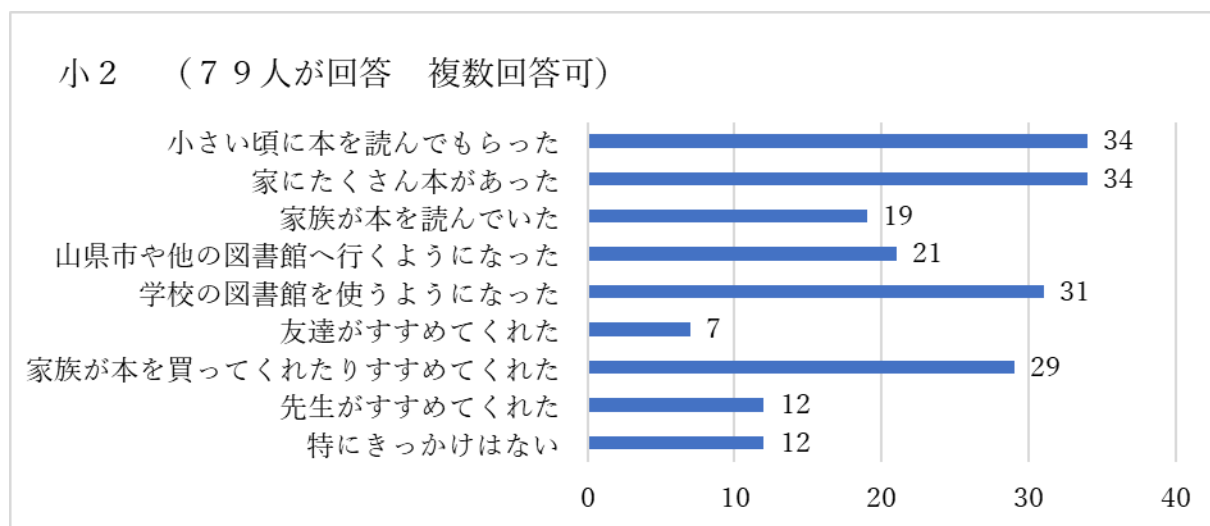
《結果》

低学年は、「小さいころに読んでもらった」「家に本がたくさんあった」「学校の図書館を使うようになった」の回答が多く、家庭と学校の読書環境が子どもに影響を多く与えていることが分かる。逆に、「友達や先生からのすすめ」は低い傾向にあった。

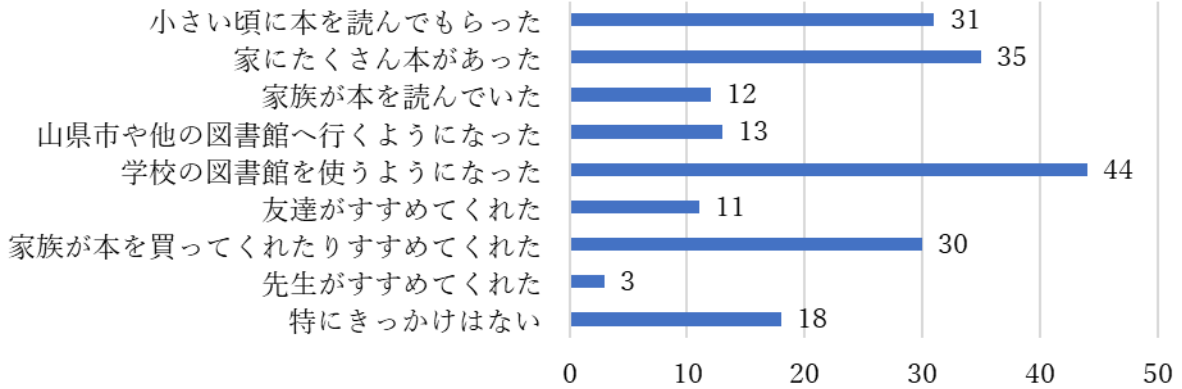
高学年は、「学校の図書館を使うようになった」が最も多く、次いで「家に本がたくさんあった」、「小さいころに読んでもらった」であった。高学年も低学年同様の傾向を示しているといえよう。また、高学年も低学年と同じように「友達がすすめてくれた」、「先生がすすめてくれた」など、周囲の人たちからの影響で読書意欲へとつながる傾向は低かった。

中学2年は、「学校の図書館を使うようになった」が最も多く、次いで「家に本がたくさんあった」であった。また、「家族が本をかってくれた」が3番目、4番目が「小さいころに読んでもらった」であった。中学2年も低学年・高学年同様「友達からのすすめ」、「先生からのすすめ」は低かった。

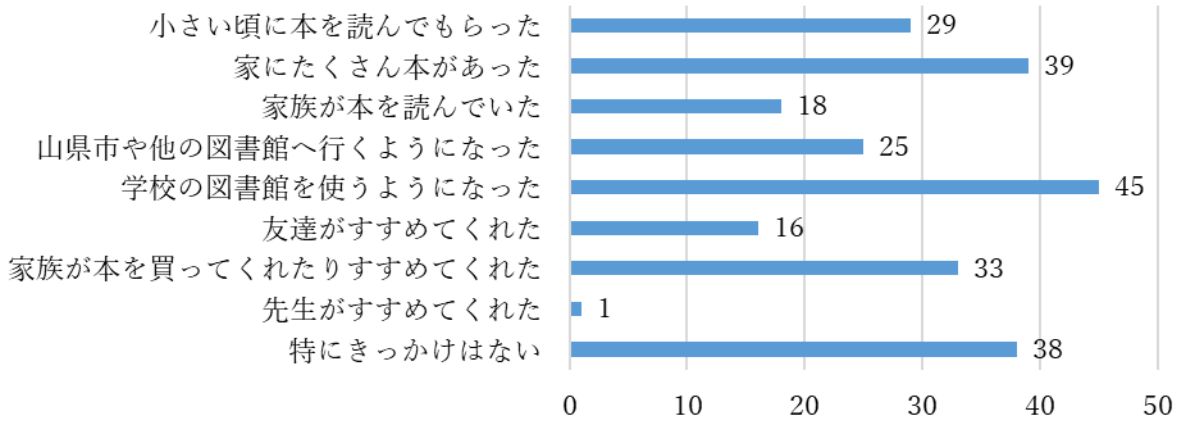
※棒グラフ内の数値は実数



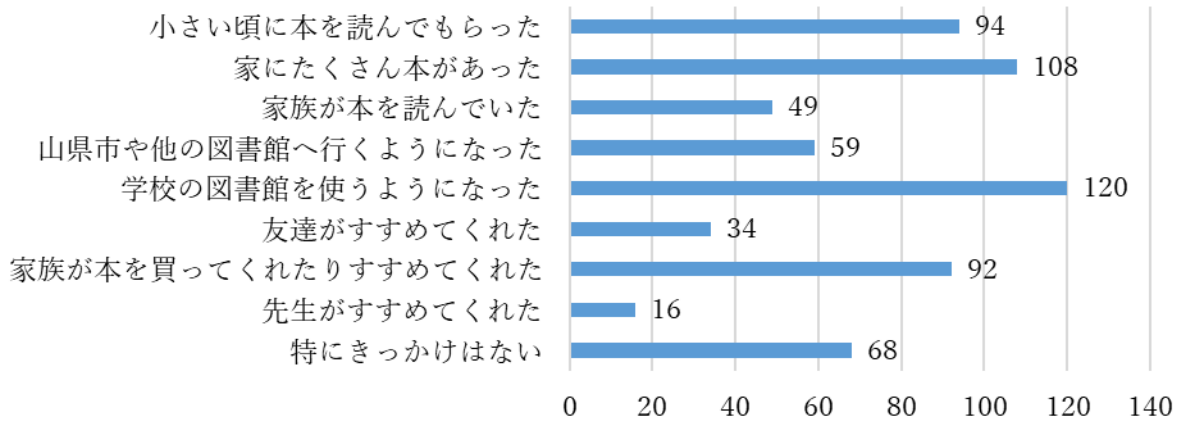
小5 (95人が回答 複数回答可)



中2 (120人が回答 複数回答可)



小2・小5・中2合計 (合計294人が回答 複数回答可)



3 第二次推進計画の実践の成果と課題

保育園児の保護者と小中学生へのアンケート調査の結果から、第二次読書計画の成果と課題について以下のようにまとめた。

○就学前の子どもとその保護者

- (1) 山口市の子どもは、就学前には家庭や保育園での読み聞かせなどにより、読書好きであるといえる。それが小学校低学年に反映され、自力の読書も多くの子どもが行っている。
- (2) 就学前の子どもに対し、保護者は読み聞かせを多くする傾向にある。しかし、2割ほどの保護者は「あまりしない」「全くしない」と回答しており、子どもが本に触れる機会に差があると考えられる。そのため、保護者への啓発、子どもへの直接の読書活動が今後も必要である。
- (3) 山口市が行っている保護者や子どもへの読み聞かせ講座は、参加率が決して高いとは言えない。コロナ禍の状況が続いている中で講座内容の魅力の充実と工夫が求められる。
- (4) 山口市の関係機関への保護者の要望は、年齢にあったおすすめ本や新刊などの具体的な紹介、本の配置の工夫など本を手にしやすい環境づくりである。

○小中学生

- (1) 学校の図書館活動や、家庭の読書環境及び読み聞かせが子どもの読書意欲につながる重要な要素となっている。
- (2) 山口市の子どもは、読み聞かせなどの機会に恵まれ、読書好きな傾向にあるものの、年齢が上がるとともに自分から読書を楽しむことに弱さが見られる。
- (3) 山口市の子どもは、低学年から中学2年にかけて徐々に読書量が減る傾向にある。また、中学2年の21.5%は「1か月に何日か」、14.6%が「1年に何日か」で、読書量が少ない状態にある。
- (4) 学校や家庭において、読んだ本の内容や感想を交流することが少ない傾向にある。本をめぐる交流が、新たな読書意欲につながったり、深い読みにつながったりすることが指摘されることから、読書を通じた人との交流を進める必要がある。
- (5) 山口市の施設は、子どもが成長するにつれ、活用されない傾向にある。高学年や中学生以上の子どもに魅力が感じられるような活動や環境づくりを仕組む必要がある。

4 国・岐阜県の基本方針

(1) 国の方針（平成30年度～令和4年度）

国は、平成13年12月、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、続いて平成14年8月に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定した。現在この計画は、平成30年4月に「第四次計画」が示され、現状を「①中学生までの読書習慣の形成が不十分」「②高校生になり読書の関心度合いの低下」「③スマートフォンの普及等による子供の読書環境への影響の可能性」の観点から指摘し、第四次のポイントとして、「①読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進」「②友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実」「③情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析」を挙げている。

また、平成29年、30年の小中高等学校の学習指導要領の改訂では言語能力の育成を図るため、各学校で必要な言語環境を整え、言語活動を充実させ、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の自主的、自発的な読書活動を充実させることを規定し、具体的な方策を概略次のように示している。

〈家庭〉

- ・家庭での読書の習慣付けの重要性の理解促進
- ・家庭での読書活動への支援（ブックスタートや家読等）

〈学校等〉

- ・学習指導要領を踏まえた読書活動の推進
- ・読書習慣の形成と読書の機会の確保（全校一斉読書や子どもによる図書紹介等）

〈地域〉

- ・図書館資料、施設等の整備、充実
- ・図書館における子どもや保護者を対象とした取組の企画、実施
- ・司書・司書補の適切な配置、研修の充実
- ・学校図書館やボランティア等との連携、協力

〈子どもの読書への関心を高める取組〉

- ・友人同士で本を薦め合うなど読書への関心を高める取組

〈民間団体の活動への支援〉

- ・民間団体やボランティアの取組の周知など

〈普及啓発活動〉

- ・「子ども読書の日」など

(2) 岐阜県の方針（令和2年3月）

岐阜県においては、国の方針を踏まえ、令和2年3月の「第四次岐阜県子どもの読書活動推進計画」において「目標」「基本方針」を以下のように示している。

「目標」

生涯にわたって読書を楽しみ、読書から学ぶ力を身に付ける子どもを目指した、豊かな心を育む読書活動の推進

「読書を楽しむ」：新しい世界を想像する喜びを感じることができるようにする。

〈基本方針1〉本との出会いの提供

〈基本方針2〉楽しみながら進める読書の習慣化

「読書から学ぶ」：読書によって新しい世界と出会い、知識を得たり考えを深めたりすることができるようにする。

他者とのコミュニケーションの中で読書のよさを体験できるようにする。

〈基本方針3〉本から学ぶ力の育成

〈基本方針4〉読書から生まれた自分の考えを表現する機会の提供

〈基本方針5〉特別な支援を必要とする子どもの読書活動の推進

第2章 第三次山県市子どもの読書活動推進計画の基本的な考え方

1 計画策定の基本方針

家庭での読書活動や山県市内の各関係機関の取組は、山県市の第一次推進計画（平成25年3月）、第二次推進計画（平成30年4月）で過去10年間にわたって行われ、子どもの読書活動は推進されてきた。

特に、乳幼児や小学校期までの読書活動は機会が多く、また多様に実施されてきたといえる。しかし、前述のアンケート調査の結果によれば、読書活動が山県市の子育てに関わる施設で実施されていることを知らなかったり、読書に意義があると分かってはいても、なかなか参加する機会を得られなかったりする保護者も一定数存在する。また、中学校期から読書量そのものが減ったり、楽しむための読書に滞り、岐阜県が示す「読書から学ぶ力」を培ったり、「読書から生まれた自分の考えを表現」して、語り合ったりする割合は低い傾向にある。

以上の傾向を踏まえ第三次推進計画においては、以下の方針を掲げる。

- ① 幼児期までの読み聞かせが子どもにとって本の楽しさを感じたり、自力の読書につながったりしていることから、これまでの活動を継続すること。また、最新の本を手にとりやすい蔵書の収集に努めると共に、子どもにとって優れた本や読ませたい本をわかりやすく配置するなどの環境をつくること。
- ② 山県市内の関係機関において実施されている読書活動が、より多くの保護者や子どもに認知されるよう、活動の実施の計画や成果をより多くの手立てを通して広報し、読書活動への啓発に努めること。
- ③ 小学校高学年期から中学校期において、読書量の減少が見られることから、

読書後の感想交流や、本の紹介等を市内関係機関で重点的にすすめ、読書意欲の向上に努めること。

2 対象者と期間

(1) 対象者

推進計画の対象者は、0歳からおおむね18歳以下の者とする。

(2) 推進計画の期間

期間は、令和5年度（2023年4月）から令和9年度末（2028年3月）までの5年間とする。また、令和6年度、令和8年度に取組状況の実態調査を行い、方向性の確認や内容の刷新を図る。

第3章 子どもの読書活動推進のための方策

1 家庭における子どもの読書活動の推進

(1) 家庭（子育て支援課）

【現状と課題】

読み聞かせは、子どもの想像力や豊かな感性を育むうえで大切なことである。特に家庭における乳幼児期からの読み聞かせは親子のコミュニケーションを促すとともに愛情を深め、子どもの本を読む力や考える力を育む。

山縣市社会福祉協議会では、乳児と保護者が絵本を通じて楽しい時間を過ごすと共に、豊かな心を育て親子の絆を深めてもらえるよう、生後6か月までの新生児をもつ保護者を対象に、絵本を1冊プレゼントする事業を行ってきた。

また、絵本等は市図書館や保育園、児童館において積極的に貸し出しを行っており、多くの家庭で読み聞かせが行われるなど成果を上げてきた。しかし、小学校高学年、中学校、高等学校と年齢が上がるにつれて読書離れが進む傾向にあることから、保護者や子どもが読書の必要性を認識し、各家庭が子どもの発達段階に応じて読書活動に取り組むことができるよう、家庭、地域等が連携・協力し家庭で本に触れるきっかけづくりを提供していくことが大切であると考えている。

【施策と具体的な取組】

◇乳幼児期からの読書活動の推進

- ・乳幼児健診等の機会を活用し、読み聞かせの大切さを保護者に啓発する。
- ・絵本の読み聞かせの楽しさを親子で共有できる機会をつくる。
- ・各家庭における読み聞かせを推進する。
- ・図書館等のおすすめ本の紹介を定期的に保護者に山縣市子育て応援アプリ「さくらっこナビ」や保育園ICTアプリを活用し発信する。

(2) 保育園・小中学校の家庭教育学級（生涯学習課）

【現状と課題】

年度	家庭教育研修会において読書講座及び家庭教育学級での取組の推進の有無		幼保		小中学校	
			家庭教育学級活動数	読書関係の講座数	家庭教育学級活動数	読書関係の講座数
1 平成30年度	有	テーマ：親子読書のすすめ 講師：山県市図書館職員	22	6	92	3
2 令和元年度	有	説明会で子ども読書活動推進計画の説明及び家庭教育学級で読書活動を取り入れて欲しい旨、お願いした。	21	3	87	2
3 令和2年度	有		7	2	44	1
4 令和3年度	有		7	1	56	2
5 令和4年度	有		17	2	85	1

※令和2、3年度 新型コロナウイルス感染症拡大防止により事業を中止する園や学校があった。

家庭教育学級の取組例①【小学校】

- 家庭教育委員会が中心となり、親子で楽しく読書ができる本の紹介をおこない、図書館に掲示し、啓発を行った。
- アウトメディアの取組と同時に行い、子どもたちに本を家に持って帰ってもらい、親子で読書するよう働きかけた。
- 他の家庭に広めたい読書後の感想について、PTA広報誌にまとめ、全家庭に紹介した。



家庭教育学級の取組例②【保育園】

- 「親子で楽しく絵本の読み聞かせ」をテーマに、年齢に合わせた絵本を配布し、各家庭で絵本の読み聞かせと、絵本読み聞かせに対する意識調査を行った。
- アンケートの集計結果を配布し、情報の共有を図った。
- 家庭教育学級を経て、保護者の読み聞かせに対する変化が多く見られた。



家庭教育とは、子どもの健全な身体と人格の発達のため、保護者またはそれに準ずる大人が子どもに対して家庭で行う教育のことであり、全ての教育の出発点である。その大切さに鑑み、市内の保育園や幼稚園、小・中学校では、家庭教育学級が設置され家庭教育学級委員長を中心に運営されている。

子どもの読書活動の推進のため、山県市家庭教育学級長会において、子どもの読書活動推進計画の説明を行い、山県市図書館職員による講話を実施した。読書推進事業について周知することで、読書活動に関する取組が増え、読書を通して家族や友人とのコミュニケーションが図られ、継続的な読書の推進に繋がったと考えている。

今後も家庭での読書活動を活性化するために、保護者の理解は不可欠である。家庭教育学級での取組を増やし継続していく必要があると考える。そのため、家庭内での読書活動の重要性について啓発を図ると共に、読書に関わる学習会や講座を開催するなど、推進事業に積極的に取り組みたい。

【施策と具体的な取組】

◇家庭教育の一環としての読書活動の推進

- ・読書活動の意義や重要性に関わる学習会を家庭教育学級に設けるよう指導する。
- ・家庭教育学級において、家庭での子どもの読書習慣の形成に関わる具体的な取組ができるよう支援し、その成果を共有できる場を設けて市内にひろめる。

(3) 生涯学習活動（生涯学習課）

【現状と課題】

読み聞かせボランティアグループの「おはなしピーチク」や伊自良読書教室が活動を行い、地域における読書活動の推進に取り組んでいる。また、生涯学習まちづくり出前講座でも読書活動の推進に関するメニューを提供している。

しかし、ボランティアの人材不足や読書活動の推進に関するメニューが少ないなどの課題があり、人材の育成やメニューの充実を図る必要がある。

【施策と具体的な取組】

◇生涯学習活動による子ども読書関連活動への支援

- ・子どもの読書活動の推進にかかわる人材を育成する。
- ・ふれあい市民講座、および生涯学習まちづくり出前講座の読書に関するメニューを充実させる。

2 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 高富児童館・子どもげんきはうす

【現状と課題】

(高富児童館)

当施設では、乳幼児・児童の健康増進及び、豊かな情操を育むことを目的とし、健全な遊びの指導のほか、児童の居場所づくりや子育て家庭に対する育児支援を行っている。

乳幼児の親子については、核家族化が進むなど、育児の手法の伝承が難しくなっているという背景の中、親子の触れ合いが不足している現状も見受けられる。絵本は、親子のコミュニケーションのツールとしても有効であり、読み聞かせ講座、本の貸出などでさらなる啓発に努めたい。

児童についても、読書離れが叫ばれる中、読書の楽しさを感じられるようなイベントを積極的に展開していくことが必要であると考える。

(子どもげんきはうす)

館内は、来館した子どもと保護者の身近に本がある環境となっている。また、

家庭でも本に親しめるよう貸出しを行っている。乳幼児親子対象の親子サークル、親子遊びなどの行事では、読み聞かせや絵本を楽しめる内容とし、幼い頃から絵本の楽しさを伝えてきた。

学齢期の児童においては、手に取って自由に本を利用できる環境の中、来館中に読書を楽しむ姿が多く見られる。

放課後児童クラブでは、市図書館からの団体貸出などの利用により児童書の充実に努めている。また、それぞれの児童クラブの状況に応じて、活動時間内に読み聞かせや読書の時間を設け、児童の読書習慣の定着を促している。

コロナ禍により来館者数が低迷しているが、今後は多くの子どもや保護者に読書の楽しさを伝えるイベントを企画して、本や読書に興味が深まる活動を推進したい。また、子ども同士、保護者同士、親子、家族で本の面白さを伝え合ったり感想を交わしたりして、読書の幅を広げ関心を高めていくことが大切であると考えている。

【施策と具体的な取組】

(高富児童館)

◇読み聞かせや読書活動の推進

- ・職員による、親子の触れ合い「にじっこタイム」(毎週月、水曜日)で、絵本、紙芝居などの読み聞かせを積極的に取り入れる。
- ・乳幼児教室で、絵本のよさを伝える講座を実施する。
- ・ボランティアや、地域の大学生の活動の場を積極的に作る。
- ・絵本・紙芝居等の蔵書を充実し、乳幼児の保護者や児童への本の貸出の充を図る。
- ・2階遊戯室や、1階図書室に職員のおすすめの本の展示を行い、読書の啓発に努める。
- ・市図書館の団体貸出の活用を図る。

(子どもげんきはうす)

◇読み聞かせや読書活動の推進

- ・蔵書の充実、市図書館の団体貸出の活用により、ニーズに応える読書環境づくりを進める。
- ・図書に興味をもてるようなディスプレイや居心地のよい図書室をつくる。
- ・各種行事や活動時間において読み聞かせや読書など本に親しむ機会を積極的に設ける。
- ・乳幼児行事やおたよりで、家庭の親子読書の重要性を啓発する。
- ・乳幼児行事やおたより内で、発達段階に応じた子どもにすすめたい本や子どもと大人と一緒に楽しめる本を紹介し、家庭で本に親しむきっかけづくりを進める。
- ・本や読書の楽しさを伝えるイベントを実施する。

(2) 山口市図書館

【現状と課題】

山口市図書館は、「子育て日本一」の市の重点施策に則り、子どもの読書環境づくりに努めてきた。例えば、館全体の乳幼児用絵本を含む児童図書の蔵書割合は、令和4年度11月時点で36.4%である。また、乳幼児に対する企画では、「本の世界に飛び込もう」をテーマに、年間4回の子育て講座を設けるなどして保護者に読書による子育ての意義を啓発してきた。さらに、本館には親子読書室を設け、毎週土曜日に読み聞かせボランティアによる紙芝居や絵本の読み聞かせを行ってきた。

しかし、令和4年9月の保育園児保護者を対象としたアンケートでは、過去5年間で、地域施設（図書館・保育園・市の関連施設）が行う、子どもを対象とする読み聞かせに「参加しなかった」割合が高く、74.7%であった。参加しなかった理由は、「知らなかった」が最も多く、「忙しい」「コロナで参加を控えた」などが続いている。今後はさらに保育園等とも連携しながら読み聞かせの工夫や、実施時間・場所などを改善する必要がある。また、従来講座や企画による活動は一定の効果はあるものの、回数や参加者には限りがある。豊富な乳幼児用図書を活用した子どもにとってさらに魅力のあるスペースをつくるなど、読書活動に意欲をもてるような環境づくりを推進する必要がある。

中学生以上の生徒は、ヤングアダルトコーナーの充実を試みてきたが、前掲のアンケートの調査によれば、読書をしたことから考えたり、意見を交流したり、互いの読書傾向を交流したりして自分の読書活動に刺激を受ける機会が少ない。今後は、岐阜県が示す「読書から学ぶ」ための企画・取組を実施したり、互いの読書活動を交流したりしてより質の高い読書活動を支えていきたい。

【施策と具体的な取組】

◇図書館の一体的整備

- ・乳幼児期の親子が楽しさや魅力を感じ、図書館に行きたいと思える環境づくりをする。
- ・子ども向けの本の割合を全蔵書の4割に引き上げる。
- ・小中学校の児童生徒の貸出しカードの加入を促進し、どの環境からも蔵書検索や予約へのアクセスができるようにする。
- ・電子図書の内容を検討し、子どもの読書活動にとって有効なコンテンツを導入する。

◇読書を楽しむ

- ・学校等各施設への団体貸し出しを促進する。
- ・おすすめ本の紹介を積極的に展開する。
- ・乳幼児期から本の楽しさを知ってもらうための講座等を充実させる。

◇読書から学ぶ

- ・情報や図書から学んで考えをつくる中学生を対象とした講座を設ける。
- ・中学校や高等学校と連携し、読書後の感想やお薦めの本の紹介をするなどして交流を促進し、生徒の読書意欲を高める。

3 市内保育園・小中学校における子どもの読書活動の推進

(1) 保育園

【現状と課題】

読み聞かせは、乳幼児期の子ども達に感性や創造力など豊かな情操を養い高めるとともに、言葉を学ぶ上で大切な働きかけともなる。そこで保育園では、保育士による絵本の読み聞かせを保育の時間の中でほぼ毎日実践し、読書に興味をもたせるよう取り組んできた。コロナ禍の生活において、マスク生活の時間が増え、園での読み聞かせはさらに多くなっている。

また、家庭においてはテレビや SNS を利用する時間が増えており、親子の直接の触れ合いが減少している。保育園より週に一回の割合で、子ども自身が興味、関心を示した絵本を貸し出し、保護者と子どもと一緒に絵本に触れる機会を生み出すように促している。こうした活動はさらに継続する必要がある。

今後もさらに読書に親しむ環境づくりや図書の充実を目指すとともに、家庭での読書をより一層広げたい。

【施策と具体的な取組】

◇読み聞かせの充実

- ・これまでの取組を継続し、絵本や紙芝居等の読み聞かせを通し、乳幼児が絵本に触れる機会をさらに創出する。
- ・保育士が絵本に関する研修や講座に積極的に参加し、読み手としてのスキルを向上させたり、本を選定したり借りたりする視点を高める。
- ・親子の読み聞かせの場を設けて一緒に楽しむことができるよう啓発し、子どもが絵本に興味や関心がもてるようにする。

◇読書環境の整備充実

- ・絵本をさらに購入し、発達に応じた絵本を整備する。
- ・絵本等を幼児の目の高さに配架し、安全に落ち着いてじっくりと見ることができる図書スペースの確保に努める。
- ・保育園にない絵本を、市図書館から団体貸し出しで借り、長期にわたって絵本を楽しむ環境を整える。
- ・市図書館などの施設をさらに利用・活用できるようにするために、図書館関連の情報を家庭に効果的に発信する。

(2) 小中学校（学校教育課）

【現状と課題】

各小・中学校では児童生徒の読書活動を推進するため、一斉読書、読み聞かせ、朝読書、配膳時間読書、図書館祭りなど、多様な取組を行っている。また、必読図書を選定することで、目的をもって質の高い読書、幅の広い読書になるよう工夫している。

読書と学力の関係や、教科指導における言語活動の重視等から、「学習・情報センター」として、教科の指導の中で図書館を活用してきた。全ての学校で標準的な蔵書数を満たしているほか、教科指導に役立つ書籍の充実にも努めている。また、楽しく、効率よく本の貸し出しができ、さらには他の学校図書館の蔵書も検索できるように、管理方法のデジタル化も進めてきた。

保護者や地域の関係者との連携については、多くの学校で読み聞かせボランティア等の活用や、親子読書の推進に取り組んでいる。図書館ボランティアも募り、市の読書指導員と共に図書館の掲示物づくりをはじめとする環境整備を行うことで、児童生徒が足を運びたくなるような図書館をつくっている。

これらの取組により、児童生徒が本に触れる機会が増え、小学校低学年では本をたくさん読むようになってきているが、年齢が上がるにつれて読書量が減少する傾向がある。

今後に向けて、読書指導員や司書教諭、司書等専門的知識を有する者が、教員や保護者など大人のためのサポート的存在としても活動し、組織的に図書館活用の意欲・動機付けができるようになることが望まれる。さらに、大人が児童生徒の読書に対する意識や児童生徒を取り巻く環境の重要性の理解を深め、具体的な取組を仕組むことで、進んで児童生徒が読書することに結びつく活動の工夫を一層進めていくことが大切である。

【施策と具体的な取組】

◇児童生徒の読書活動の推進及び適切な指導、助言を行うための取組

- ・一斉読書、読み聞かせ、図書館祭り（個人・学級等の貸し出し冊数調べ及び表彰、教師や保護者が推薦する本の紹介など）、広報などの取組を継続し、読書活動の充実を図る。
- ・市図書館、PTA、図書館ボランティア（読み聞かせ、掲示物の作成など）、家庭（親子読書の推進など）、学校間などの連携を図る。
- ・図書館担当教諭の研修と校内での研修会の充実を図る。
- ・読書指導員を各校に配置し、発達段階に応じた推薦図書の紹介をする。
- ・市の読書感想文コンクールを実施し、読書や本について交流する機会を設定する。
- ・教科の学習に役立つ資料の充実を図る。
- ・図書の管理方法のデジタル化をさらに推進し、市内の学校図書館及び市図

書館をネットワーク化する。

- ・ブックトークやビブリオバトル等の読書活動を実施し、読書意欲の向上を図る。
- ・児童生徒が、市図書館の図書館ボランティアとして、図書の管理や掲示物を作成する機会を設定する。
- ・山県市立中学校合同部活動の新聞部の活動状況や作成した掲示物を、市図書館や小・中学校で紹介し、NIE教育を推進する。

(3) 市内関連施設の読書活動

市内には、山県市関連施設のみならず私立幼稚園、公立高等学校等がある。それぞれの立場から子どもの豊かな読書活動のために、平成25年度の第一次推進計画から共に計画を立て読書活動を推進してきた。幼稚園・高等学校においては第三次推進計画にあたり、今後5年間の計画を次のように示している。

①市内私立幼稚園

【現状と課題】

幼稚園においては、各クラス1週間に5～8冊の割合で、ほぼ毎日絵本・紙芝居などの読み聞かせをしてきた。また、常に絵本を自由に手に取ることができるよう学級文庫を準備し、30冊ほどの図書をローテーションしながら絵本に親しめる環境づくりを行ってきた。さらに、各家庭に毎月一人1冊の学年共通の図書を購入してもらい、家庭での読み聞かせを実践した。また、読み聞かせに適した図書ばかりではなく、多種類の内容で編集された総合的な絵本も一人1冊購入し、園児にいろんな分野の世界に触れさせてきた。

幼稚園が主体となるばかりではなく、「お家からのおすすめの本」を保護者に紹介してもらい、それを読み聞かせた園児の反応を学級通信でお知らせしたり、PTAが保護者向けの育児図書を購入したりして、読書活動を実践してきた。

こうした活動の結果、保護者への読み聞かせに関するアンケートで、「お子様は、絵本の読み聞かせは好きですか。」の問いに対し、「大好きで請求するほど43%」「読んであげれば喜んで聞く53%」「あまり好きではなく集中して聞かない1%」と、読み聞かせに大変興味を示す子どもが多くなってきた。

しかし、一方で「家で読み聞かせをされていない家庭が28%」あるという実態もあり、読み聞かせをしたいと考えていても忙しくてできない保護者のために、幼稚園が読み聞かせの工夫をさらにする必要がある。また、読み聞かせの必要性を保護者に訴えるために、今後もさらなる情報発信をしていきたい。

【施策と具体的な取組】

◇魅力ある読書活動の推進

- ・ PTA 活動を中心に楽しい絵本・紙芝居を積極的に増やす。
- ・ 読み聞かせをする側の技能を一層高める。
- ・ 文字や言葉に興味をもたせられるように、文字遊び・言葉遊びの時間をより楽しくするよう工夫する。
- ・ 職員だけではなく、より多くの人に読み聞かせをしてもらい、読み手のバリエーションをひろげて子どもの興味を高める。

◇保護者への読み聞かせの大切さの啓発

- ・ 幼稚園から毎月発行する冊子「げんき」を活用し、図書の紹介を推進すると共に、子どもたちに人気のある絵本を保護者に伝えていく。
- ・ 読み聞かせに関する保護者アンケートを実施・公開し、保護者の読書活動への意欲を促す。

② 市内公立高等学校

【現状と課題】

令和4年度の生徒数は200人程度である。進学のために評論などの図書を読む生徒もいるが、読書に関して状況は多様である。

アンケートによれば、読書が苦手、読書する習慣を持たないという生徒は4～5割である。現実には、8割の生徒は図書館の貸出冊数が0～2冊にとどまり、読書週間などの機会に本を借りるが、読書の習慣があるとは言えない状況である。

朝読書をはじめ、読書イベントや図書委員会による本の紹介を継続するなど、手を伸ばせば読書ができる環境は整っている。こうした活動は、読書習慣を持たない生徒に読書をする機会を提供し、読書についての関心を喚起していると言える。

また、福祉を主に学ぶコースでは、子どもの発達保育の授業で絵本について学習し、オリジナルの絵本製作、読み聞かせの実技も行っている。図書委員の生徒も併せて、山県市内近隣の小学校、保育園に読み聞かせボランティアに向いている。

生徒が卒業後、社会を生き抜くために、社会生活に必要な読む力をつけることが大切である。図書館活動においては、生徒が長い文章を読み慣れること、また、自分の気持ちや考えを言葉で表現できるように、語彙を増やすことを目指している。そのために、紙か電子かを問わず、読書に親しむ機会を提供し続ける必要がある。生徒のニーズを把握し、日常的に本を手にする環境をつくる必要がある。

【施策と具体的な取組】

- ◇読書する機会を提供し、読書についての関心を喚起する。
 - ・朝の読書週間を実施する。期間中は必要に応じて学級文庫を設置し、身近に本のある環境を作る。
 - ・全校LHRなどを利用して、教諭・生徒から本の紹介を行う。
 - ・図書委員を中心に、図書館だよりや展示などで生徒のおすすめ本を広報する。
- ◇多様な生徒に対応する図書情報資料を備え、相互貸借なども利用して提供する。
 - ・読書が苦手な生徒に向けた、読みやすい図書情報資料を備える。
 - ・読書に関心が深い生徒が関心を持つ本の情報を収集し、すみやかに本を提供する。
 - ・授業や進学・就職に必要な図書情報資料について、教諭と図書館が連携して適切な本を用意する。
- ◇生徒の知的好奇心を促し、探究活動を支援する。
 - ・図書館の図書情報資料を紹介し、授業での利用を推進する。
 - ・読み聞かせボランティアとして活動する生徒の育成を図る。
 - ・生徒が身近な課題について、知識や情報を得ること、調べることを支援する。

4 読書活動推進のための体制

【施策と具体的な取組】

- ◇読書活動推進の調査の継続
 - ・市関係課並びに施設や、幼保、小中高等学校において読書活動推進の進捗状況を把握するために、自己評価を実施し計画の刷新を図る。
 - ・保育園児保護者や小中学生を対象に読書の実態調査を実施し、常に子どもの読書の実態の把握に努める。
- ◇連携の強化
 - ・市図書館が事務局となり、各機関の司書等読書担当者及び関係団体の代表者からなる研究会・交流会を定期的を開催し、読書活動の推進を図る。

※市内関係機関・団体

子育て支援課・学校教育課・生涯学習課・高富児童館・子どもげんきはうす市保育園長会・私立保育園・小規模保育施設等・私立幼稚園・市小中学校長会・市内高等学校・PTA家庭教育学級・市小中学校教育研究会国語科部会及び図書館主任部会・市内小中学校読書指導員・山口市図書館 他

◇啓発と広報活動の推進

- ・子どもの読書活動の実践及び成果を関係機関・団体と共有する。
- ・広報紙や関係機関のホームページ及び、それぞれの施設内の掲示などにより読書活動推進の情報提供を行う。

資料

資料Ⅰ 山県市関係各課「第二次山県市子どもの読書活動推進計画点検票」

4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：できなかった

評価方法	例、	④	3	2	1	当てはまる箇所に丸印をうつ
------	----	---	---	---	---	---------------

1 家庭における子どもの読書活動の推進

担当：子育て支援課

(1) 家庭において

乳幼児期からの読書活動の推進

- ・全新生児を対象としたブックスタートを実施します。 ④・3・2・1
- ・乳幼児検診等の機会を活用し、読み聞かせの大切さを保護者に伝えていきます。 4・3・②・1
- ・保護者を対象とした読み聞かせ講座を実施します。 4・3・②・1
- ・各家庭における読み聞かせを推進します。 4・3・②・1
- ・図書館等のおすすめ本の紹介や読み聞かせ会などへの参加を促進します。 4・3・②・1

担当：生涯学習課

(2) 保育園、小・中学校家庭教育学級（PTA活動）において

家庭教育の一環としての読書活動の推進

- ・子どもの発達に応じた読書活動の意義や重要性についての学習会を開催します。 4・3・②・1
- ・子どもの本の選び方、読み聞かせの仕方など、家庭内で子どもの読書習慣に結びつく学習会を実施します。 4・③・2・1
- ・保護者自身が本に対して、興味・関心をもつような講座を家庭教育学級の中で実施します。 4・③・2・1

担当：生涯学習課

(3) 子ども会活動において

子ども会活動における読書活動の推奨

- ・子ども会活動での読み聞かせや読書会を推進します。 4・3・②・1
- ・子ども会役員を対象とした読み聞かせ教室を実施します。 4・3・②・1

2 地域における子どもの読書活動の推進

担当：生涯学習課

(1) 公民館において

地域住民等による子どもの読書関連活動への支援

- ・読み聞かせボランティア等、子どもの読書活動推進にかかわる地域人材を育成します。 4・③・2・1
- ・子どもの読書活動を継続的に行ってもらうための学習機会を提供します。 4・③・2・1
- ・ボランティア団体、グループ同士の交流の場を提供します。 4・③・2・1

担当：高富児童館、子どもげんきはうす

(2) 高富児童館・子どもげんきはうすにおいて

読み聞かせや読書活動の推進

① 高富児童館

- ・職員による、親子の触れ合い「にじっこタイム」（毎週月・水曜日）では、絵本、紙芝居などの読み聞かせを積極的に取り入れます。 4・③・2・1
- ・乳幼児教室では、絵本の良さを伝える講座を実施します。 ④・3・2・1
- ・ボランティアにとり読み聞かせを積極的に取り入れます。 4・3・②・1
- ・絵本、紙芝居等の蔵書を充実し、乳幼児の保護者や児童への本の貸し出しの充実を図ります。 4・③・2・1
- ・2階遊戯室や、1階図書室には職員のおすすめ本の展示なども行い、読書の啓発に努めます。 ④・3・2・1
- ・市図書館の団体貸出しの活用を図ります。 4・③・2・1

② 子どもげんきはうす

- ・蔵書の充実、図書館の団体貸出しの活用により、ニーズを満たす読書環境を進めます。 4・③・2・1
- ・学童が本に興味をもてるようなディスプレイや居心地のよい図書室づくりに努めます。 4・③・2・1
- ・各種行事において読み聞かせなど本に親しむ機会を積極的に設けます。 4・③・2・1
- ・施設内、おたより内でおすすめ本の啓発をします。 4・③・2・1

担当：図書館

(3) 図書館において

読み聞かせや読書活動の推進

① 本の楽しさの周知

- ・読み聞かせボランティアの育成及び絵本等の読み聞かせを ④・3・2・1
する機会の拡充を図ります。
- ・おすすめ本の紹介を積極的に展開します。 4・3・②・1
- ・幼児期からの絵本の楽しさを知ってもらうための講座等を 4・③・2・1
開催します。
- ・「子ども読書の日（4月23日）」、「子ども読書週間」 4・3・②・1
においてイベント等を開催します。

② 魅力ある図書館づくり

- ・各年代に合わせた児童書の充実を図ります。 4・③・2・1
- ・親子で楽しめる講座等を開催します。 4・③・2・1
- ・DVD等視聴覚資料及びコミックの充実を図ります。 4・3・②・1
- ・専門的知識、技能を要する司書の設置及び育成に努めます。 4・3・②・1
- ・学校等各施設へ団体貸出しを促進します。 4・③・2・1
- ・本館及び高富図書室、みやまジョイフル倶楽部図書室の親 4・③・2・1
子読書コーナー、ヤングアダルトコーナーの充実を図ります。

3 保育園、幼稚園、小・中学校、高等学校における子どもの読書活動の推進

担当：保育園

(1) 保育園において

① 読み聞かせの充実

- ・これまでの取組を継続し、絵本や紙芝居等の読み聞かせを 4・③・2・1
通し、乳幼児が絵本に触れる機会を創出します。

② 読書環境の整備充実

- ・絵本の購入や市図書館等の活用により、発達に応じた絵本 4・③・2・1
を選定し整備します。
- ・絵本等を幼児の目の高さに配架し、安全に落ち着いてじっ 4・③・2・1
くりと見ることができる図書スペースの確保に努めます。
- ・絵本等を幼児の目の高さに配架し、安全に落ち着いてじっ 4・③・2・1
くりと見ることができる図書スペースの確保に努めます。

担当：幼稚園

(2) 幼稚園において

① 保護者に対する読み聞かせの働きかけ

- ・園冊子「げんき」等により読み聞かせの大切さや本の紹介 4・③・2・1
など情報を発信します。
- ・保護者意見などを紹介し、保護者に刺激を与え読み聞かせ 4・③・2・1
に対する意識の高揚を図ります。

②絵本に興味をもたせる取組の推進

- ・興味を示すジャンルの把握をしながら意図的な読み聞かせの本選びをしたり、職員の読み聞かせの技能の一層の向上を図ったりします。 4・③・2・1
- ・雨天時などを活用し、絵本に触れる機会を意図的に創出します。 4・③・2・1

③保護者の読書推進

- ・保護者向け図書の活用を推進します。 4・③・2・1

担当：学校教育課

(3) 小・中学校において

児童生徒の読書活動の推進及び適切な指導、助言を行うための取組

- ・一斉読書、読み聞かせ、図書館祭り、広報などの取組を継続し、読書活動の充実を図ります。 4・③・2・1
- ・市図書館、PTA、ボランティア、家庭、学校間などの連携を図ります。 4・③・2・1
- ・図書館担当教諭の研修と校内での研修会の充実を図ります。 4・3・②・1
- ・読書指導員を各校に配置します。 ④・3・2・1
- ・市の読書感想文コンクールも実施や感想文講座を実施します。 4・③・2・1
- ・教科の学習に役立つ資料の充実を図ります。 4・③・2・1
- ・管理方法のデジタル化をさらに推進し、市内の学校図書館をネットワーク化することで、学校同士のビブリバトルを行うなど、読書意欲の向上を図ります。 4・3・②・1

担当：山県市内県立高校

(4) 高等学校において（山県市内県立高校）

読書活動の推進のための取組及び啓発

- ・「図書館だより」やPOPの作成、展示などによる図書委員を中心とした積極的な広報活動を進めます。 4・③・2・1
- ・図書館オリエンテーション、総合的な学習の時間及び朝の読書週間での啓発活動を推進します。 4・③・2・1
- ・生徒の調べ学習に対応できる資料の充実を図ります。 4・③・2・1
- ・他館との積極的な相互貸借による資料の提供及び情報交流を進めます。 4・③・2・1
- ・読み聞かせボランティアとして活動する生徒の育成を図ります。 4・③・2・1

資料Ⅱ 保育園児保護者に対するアンケート調査

設問6 「設問5 過去5年間に、山泉市の施設で行っている、お子さんを対象とした読み聞かせに参加したことはありますか。」の回答で、「参加しなかった」理由。(記述式)

() 内の記述は事務局で補足。

- ・(読み聞かせを実施していることを)知らなかった。(多数)
- ・保育園へ入る前の頃は児童館の読み聞かせに行っていたが、保育園に行くようになってからは、保育園で読み聞かせをやってくれているので行かなくなった。
- ・たまたま時間が合わなかった。コロナがはやり出してからは密を避けるために参加を控えた。
- ・自宅で読み聞かせはしている。
- ・別の市町村に在住の頃はそちらで参加したことはあるが、コロナウイルスが流行るようになってからは、イベントの参加を控えめにしている。
- ・(読み聞かせの)お知らせがあることを知らなかった。
- ・コロナの影響や仕事の都合で参加できなかった。
- ・特に必要と思わなかった。
- ・仕事をしており日にちが合わない。
- ・仕事があり行く機会がなかった。
- ・基本開催されるのが土日で仕事のため。
- ・山泉市に引っ越してからは、読み聞かせがあるのを知らなかった。
- ・子供が走り回ってほかの人に迷惑をかけるから。
- ・育児家事で忙しかったから。
- ・コロナが怖く公共施設には連れていけなかった。
- ・開催日がわからなかったものや、わかっても平日だったりしたので仕事で行けなかった。
- ・情報が無かった。
- ・コロナ禍だった。
- ・どこでやっているのか知らない。
- ・日程の都合が合わないのと、外で遊ぶ事の方が多いから。
- ・興味を持たなかった。
- ・普段絵本を読む習慣がなかったから。
- ・山泉市主催の読み聞かせがあることを知らなかった。
- ・兄弟の習い事で予定が合わない。
- ・開催時間帯が子どもの生活リズムに合わなかった。
- ・会場が家から遠い。

設問 8 「設問 7 保護者を対象とした読み聞かせ講座の参加についてお考えをお聞かせください。」（記述式）

※ 16 人の回答分を網羅して掲載。

- 1 日時次第ですが、出来るだけ参加したいです。
- 2 仕事でなかなか時間が合わない。
- 3 両親共働きでなかなか参加できないことも多いが、タイミングが合えば参加したい。
- 4 土日開催にしてもらえると参加しやすいです。
- 5 いつどのようなものがやっているのかわからない。
- 6 感染対策をしてほしい。
- 7 3歳頃までは毎日寝る前に読み聞かせしていたが、本人が絵本よりもテレビに夢中になり、自分で絵本を持ってこなくなったというのも一つです。
- 8 時間と余裕が無いため、あってもなかなかいけない。
- 9 時間と都合が合えば、参加したいと思いますが、子ども同伴もしくは託児完備でないと参加は難しいです。
- 10 仕事の休みが取りにくい為、保育園行事などの際に一緒に行って欲しい。父親にも興味をもって貰えるようにして欲しい。
- 11 特になし。
- 12 仕事が忙しい。
- 13 こんなふうを読むといいですよっていうリーフレットがあれば、目を通します。
- 14 父子家庭の父として、どのように読み聞かせるのが子どもにとって一番効果があるのかを知りたい。
- 15 仕事の休みが合えば参加したいです。
- 16 保育園での家庭教育学級など開催なら参加したい。

設問 12 お子さんの図書や読書について、市図書館、保育園、公民館、高富児童館、子どもげんきはうす、などにご要望があればお聞かせください。（記述式）

※ 3 3 人の回答分を網羅して掲載。

- 1 親子で読める楽しい絵本や月齢に合った子供が喜ぶ絵本をおすすめしてほしい。
- 2 もっと新作絵本をたくさん置いて欲しい。
- 3 季節にあった本やオススメの本があれば、ぜひ教えてほしい。
- 4 本はジャンルを問わずいろいろ読むべきだと思うが、親が読む習慣が無い為、読む習慣を持たせられて無いのが現状です。
本は読んだ方が良くと園でも伝えて頂けると助かります。
- 5 いつも同じような本を選んでしまうので、年齢や興味になどにあったものを選んでおすすめてもらいたい。

- 6 今まで山県市の図書館の存在を知りませんでしたでしたが一度子供といくと親も子も色々な本をか
りることができ楽しめました。これからも利用させていただきます。
- 7 子供たちによるおすすめ図書の掲示があればいいなと思います。メディコスにありました。
- 8 まだまだコロナで大変ですが、読み聞かせの場がたくさんあるといいなと思います。
- 9 市の図書館では絵本がタイトルの50音順なことが多く、みつけにくいです。人気の作家さん
は作家順になっていますが、もっと作家分けを増やして欲しいです。
- 10 保育園に通っていると、図書館や児童館などを利用することがあまりないので、読み聞かせな
どのイベントがあれば保育園からお知らせがあるといい。
- 11 認知度が少ない気がする。
- 12 図書館を利用したい親は多いが、利用できていないのが実情。新しい社会福祉協議会近くなど、
場所を分かりやすい所に移転を希望します。
- 13 山県市に越してきて3年経ちますが、どこに図書館があるのか知らない。公民館もどこにあっ
て何の行事を（開催）されてるのか、公民館にも本があるということを知らないです。
- 14 読み聞かせなどイベントがあれば参加したいです。できれば日曜日ありがたいです。
平日は仕事のため。
- 15 本の劣化が気になる時があります。また、平日に利用したくても、仕事終わりで園にお迎えに
行ったあとだと閉館時間に間に合わなくて断念する場合があります、夏場だけでも閉館時間が少し
遅めだとありがたいです。
- 16 とくになし。
- 17 子どもは、毎週末、保育園で絵本を借りてくることを、とても楽しみにしています。帰宅後は、
真っ先に絵本を出して読みます。今後も引き続き、絵本貸出をしていただけたらありがたいで
す。
- 18 日曜祝日もやっている所が増えてほしい。
- 19 保育園での借りられる冊数を増やして欲しいです。
- 20 高富地区に大きな図書館を作ってほしいです。
- 21 高富児童館は冊数こそ少ないが質の高い絵本を厳選しているし、管理が行き届いている。市図
書館も良い絵本を選んで欲しい。赤ちゃん向けの絵本のコーナーにサイズは小さくても内容が
難しい絵本があったり痛んでいたりするものもある。高富児童館のスタッフの方は現代の親子
が喜んで読む絵本をどの方もとてもよく知っているの、意見を聞くのも良いのでは？後、子
ども向け絵本の置き方ももっと工夫して欲しい。予算を工面して例えば児童文学評論家の赤木
かん子さんにコーディネートをお願いするなどして、ワクワクしながら絵本を手取る空間づく
りをして欲しい。公園もコミュニティセンターもある恵まれた環境があるので有効に活用して
市外からも足を伸ばしたくなる図書館になって欲しい。図書館や児童館が充実していて居心地
がいいというのは子育てに力を入れているという大きなアピールになるし、子育て世代を増や
すことにつながると思う。
- 22 市図書館はなんとしても維持してほしい。

- 23 伊自良図書館の雰囲気がとても良く、2週に一度は行っています。
職員の方の対応がとても良いです。伊自良図書館以外の施設は行った事がないです。
- 24 年齢に合ったおすすめの本をいくつか紹介して頂けると嬉しいです。
- 25 新刊やおすすめ本の知らせがあると手にとりやすい。
- 26 子どもげんきはうすの絵本貸出期間も、高富児童館と同じ1ヶ月になると嬉しいです。
- 27 プラレールの本や間違い探しの本をよく読むので新しい本を入れてもらえると嬉しいです。
- 28 図書館を利用したいと思うけど、仕方がわかりません。
- 29 子どもと一緒に遊べる施設が家の近くにあると行きやすい。
- 30 上の子が図書館で勉強できる環境を作ってもらえたら、下の子も一緒に行って本を借りたり読み聞かせしたりできると思います。メディアコスモスは上の子がよく利用します。山口市にも勉強できる環境(場所)がほしいです。
- 31 年齢にあったオススメが分かるといい。
- 32 図書館にもっとゆったり本を読めるスペースがあると良い。年齢別オススメな本や、本の紹介をして欲しい。近隣の市町村のように本の種類が充実した施設が山口市にもあるともっと利用者が増えると思う。
- 33 市立図書館で本をかり、返却後本に小さなシミと（食事のところに本を持ってない）1ページの折れ線があると連絡をもらい、確認作業のため出向くことになりました。
あきらかな破損破れなどももちろん弁償いたしますが、借りにくくなってしまったので、子供が触ること少し視野にいれてみていただけるとありがたいです。
すみません。

資料Ⅲ 山縣市子どもの読書活動推進計画検討委員会設置要綱

○山縣市子どもの読書活動推進計画検討委員会設置要綱

平成24年3月7日
教育委員会告示第1号

(設置)

第1条 山縣市子どもの読書活動推進計画(以下「推進計画」という。)を策定するため、山縣市子どもの読書活動推進計画検討委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、推進計画の策定に関する事項について検討する。

(委員)

第3条 委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 保育園、幼稚園、学校教育又は社会教育関係者
- (3) 読書活動推進団体等関係者
- (4) その他教育委員会が必要と認める者

3 委員の任期は、推進計画が策定されるまでの期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会には、委員の互選により委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、議長を務める。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、その説明又は意見を聞くことができる。

(作業部会)

第6条 推進計画を策定するに当たり細部を検討するため、市職員で構成する作業部会を置くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

資料Ⅳ 第三次山縣市子どもの読書活動計画推進計画検討委員会名簿

(令和4年度)

	氏名	役職	区分
1	山田光昭	社会教育委員の会議長	地域
2	古田豊行	図書館協議会委員長	
3	大西美紀	子どもげんきはうす館長	
4	丹羽洋子	高富児童館 NPO 法人かばさんファミリー代表	
5	江尾康子	読み聞かせボランティア代表	
6	玉井朋子	P T A 連合会代表	家庭
7	春日涼子	はなぞの北幼稚園	幼稚園 保育園 学校
8	山田佐知子	子育て支援課課長	
9	伊藤徳子	保育園長代表 伊自良保育園園長	
10	酒向みゆき	山県高校 図書司書	
11	森川勝介	学校教育課 課長	
12	寺田祐美子	小・中学校校長代表 梅原小学校校長	
13	河野沙希	小・中学校図書館主任代表 美山中学校	
14	藤根勝	生涯学習課課長	

1	岡山敏明	山県市図書館館長	事務局
2	高井俊哉	山県市図書館係長	

第三次山縣市子どもの読書活動推進計画策定作業部会名簿

(令和4年度)

	氏名	職名
1	岩田豊実	子育て支援課 課長補佐
2	丹羽洋子	高富児童館館長
3	丹羽知佳	伊自良保育園副主任保育士
4	衣笠みつ美	子どもげんきはうす係長
5	毛利佐知子	生涯学習課課長補佐
6	矢島睦美	生涯学習課係長
7	深尾寛	学校教育課課長補佐
8	横山美由紀	図書館文化芸術専門員

第三次 山県市子どもの読書活動推進計画

令和5年(2023年)3月

○発行 山県市

○編集 山県市図書館

〒501-2121

岐阜県山県市大門 850-65

TEL 0581-36-3339

E-Mail library@city.gifu-yamagata.lg.jp